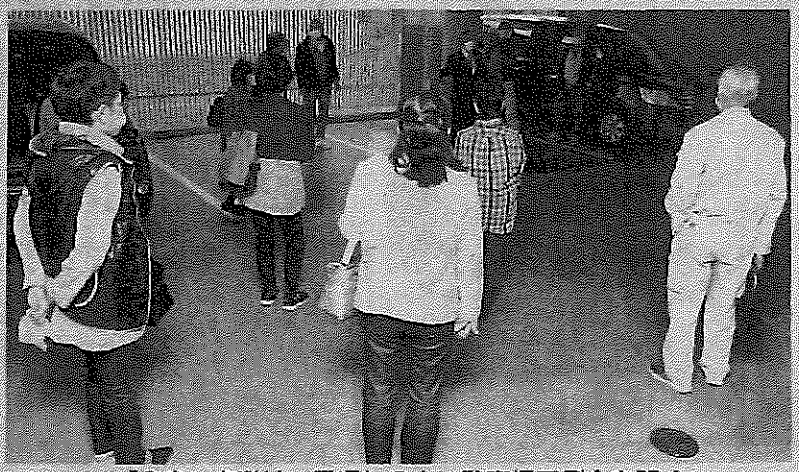
新型コロナ　みんなで乗り切る

# 断酒の絆 絶やさぬ

## 依存症のグループ　公共施設休館で活動工夫

## 駐車場や公園で例会

広島市内と近郊のアルコール依存症の当事者や家族でつくるNPO法人広島断酒ふたば会が、メンバーの孤立を防ぐ活動に工夫を凝らしている。新型コロナウイルスの感染拡大で公共施設が休館になる中、体験や悩みを語り、飲酒を断つ例会が軒並み中止に追い込まれているためだ。駐車場を借りて短時間の例会を開くなど、苦心の取り組みが続く。（林淳一郎）



「3密」を避け、風通しのよい駐車場で例会を開く広島断酒ふたば会安佐支部のメンバー

午後6時半、広島市安佐南区内の駐車場に、ふたば会安佐支部の15人がマスク姿で集まった。ほんの10分間、顔合わせするだけの例会。それでも互いの顔を見ることが断酒を続ける力になると、急きょ会場を段取りした。

「家にいると飲酒しかない時間帯。孤立して、再び飲酒に陥らないようにしなければ」と山崎進市支部長(63)。当面は「3密」を避けるため、駐車場を借りて例会を開く予定だ。例会に10年ほど参加する男性(61)も「みんなと会うだけで落ち着く」と話した。

ふたば会は本部と七つの支部がある。メンバーは家族を含めて約265人。通常の例会は2時間、地元の福祉センターや公民館で開き、つらかった体験談などを語り合う。ところが、緊急事態宣言が全国に拡大された4月中旬以降、公共施設が利用できなくなった。

こうした中、公園で例会を計画する支部もあるという。支部長らがメンバーに電話をしたり、自宅を訪ねたりして悩みを聞く活動も始めた。中田克宣会長(76)は「絆が途切れない取り組みを重ねていく。この経験が今後の糧になると信じている」と力を込める。

全国では、アルコールや薬物、ギャンブル依存症の当事者や家族がオンラインでつながる活動もスタートしている。東京のNPO法人ASK（アスク）が認定する依存症予防教育アドバイザーが窓口を開設。電子メールで受け付け、ビデオ会議アプリ「Zoom（ズーム）」などを利用したミーティングの場を紹介する仕組みだ。アクセス方法はASKのホームページに掲載している。

ただ、生活が苦しく、パソコンやスマートフォンを持てない依存症の人たちもいる。瀬野川病院（広島市安芸区）のKONUMA記念依存とこころの研究所の加賀谷直行所長(58)は「あらゆる手段でつながりを絶やさないことが大切。それが再飲酒などのブレーキになる」と強調する。

新型コロナウイルスの感染防止策や外出自粛を乗り切るあなたの工夫をお寄せください

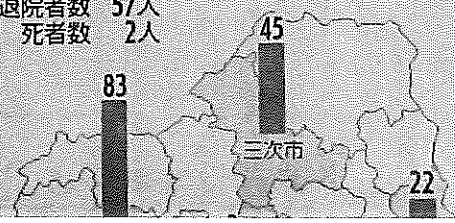
◀友だち登録はこちらから

houdou@chugoku-np.co.jp

FAX 082-236-2321

### 県内の新型コロナウイルスの感染確認者数

感染確認者数 164人
退院者数 57人
死者数 2人




## 労働者の相談 弁護士が助言

有志10人、電話対応

広島弁護士会所属の有志でつくる広島過労死問題研究会は8日、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急の無料電話相談「労災・過重労働110番」を実施した。同会事務局の広島法律事務所（広島市中区）は必要性が高いとみて当面、平日午前9時半～午後5時半で無料相談を続ける。

同法律事務所で弁護士10人が対応。医療従事者の同

## 特殊詐欺 コンビニ店員 被害防ぎ表彰

広島南署

広島南署は8日、特殊詐欺を防いだとして、広島市